

徒然なる日記121007～忙しいこと～

E-book推進協会

忙しいこと

忙しいうちが花という。忙しく飛び回っている間は、ふと休みがほしくなるが「今の忙しさは若いうち、若いうちは魂燃やして一日生ききったっていう実感がほしい」。そう言い聞かせて生きる。

ただ、忙しさをいつまで続けるか。結局、いくらでも忙しくしようと思えばできるし、逆に暇にすることもできる。自分次第だ。昔から言われているが、日本国内を見たとき、多くは働きすぎだ。そんなに汗水流すことを美德とする時代ではない。でも多くの人は結局一步踏み出せないまま、現状に甘んじる。

本当は何がしたいか。自分は伝えたいと思って仕事を変えた。その仕事なら魂燃やせる仕事だと思った。いくら忙しくても、やりがいを持てると思った。確かにそういう面もあるが、やりが以上に予期せぬデメリットも多いことに気づいた。先見性のなさは反省すべき点だろう。失った余暇。妻や友人との会う時間さえ十分に取れず、わびしい思いをさせるし、自分もする。

今、この忙しさから解き放たれたらなんと自由だろうかと感じることがある。もっと言えば、仮にずっと働き続け定年を迎えたとき、老後はなんと解放的な気分になれるだろうかと思像は易い。そこにたどり着いた人生の先輩方はそれだけで尊敬する。

何でこんなことを思うか。今忙しいと思っているから。また、その忙しさに疑問を持っているから。今やっている仕事は修行とは思っている。結局、一サラリーマンで終わるのを是とするか、あるいは不確実でも独立の道を選ぶか。その長短を天秤にかけている。

そんな久々の休日。空想を駄文で残す。

2012年10月7日 記す